

富士通の 教育ビジョン

－ 未来への学び －

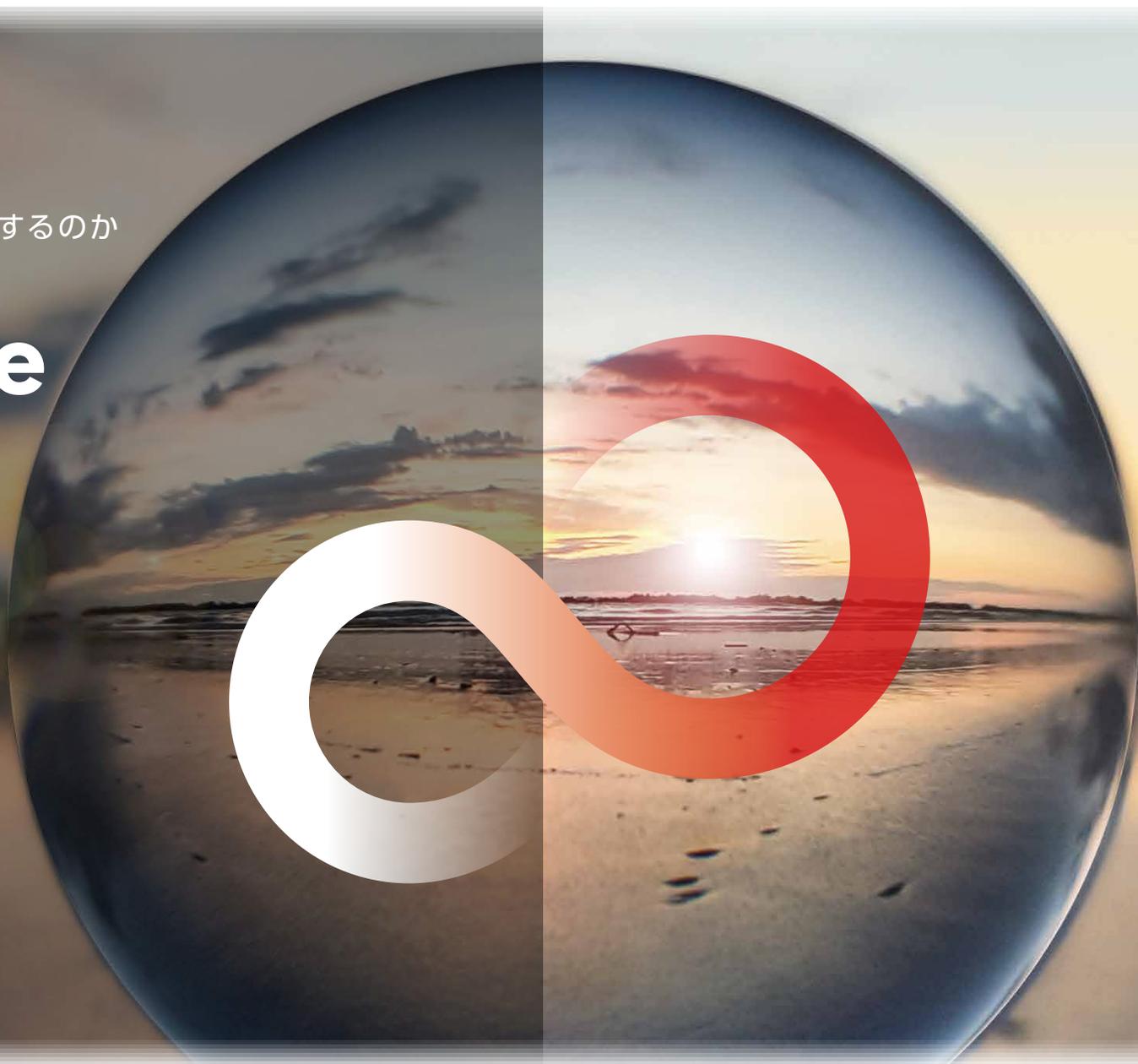


FUJITSU

富士通は何のために存在するのか
そのためにわたしたち一人ひとりが何をするのか

Our Purpose

わたしたちのパーパスは、
イノベーションによって社会に
信頼をもたらし、世界をより
持続可能にしていくことです。



Fujitsu Way について
<https://www.fujitsu.com/jp/about/philosophy/>



富士通は、学びを通して一人ひとりが夢に挑戦できる未来を、みなさまと共に創っていきたいと考えています。

富士通は、未来を築く鍵は「人」だと考えています。

人と人がつながり、協力しあいながら創造性を発揮し、大きな価値がすべての人にもたらされる、それが未来のあるべき姿ではないでしょうか。

一人ひとりの人が持つ能力と可能性をたえず伸ばし、お互いに協力しあいながら、社会全体の力を高めていくことが、より豊かな未来に向けて求められています。

富士通が人の学びと成長にどのように貢献するかについて「富士通の教育ビジョン -未来への学び-」としてご紹介します。



富士通の教育ビジョン ー未来への学びー | CONTENTS

1. 未来を築く学び

- 社会の変化「予測のつかない社会で変化に立ち向かう」 5
- 富士通が考える学び「学び続ける人が未来を築く」 6

2. 学びのために富士通ができること

- 富士通が考える大切なこと 8

3. 富士通の取り組み

小中高 大学 社会

		小中高	大学	社会	
大学技術職員の活躍に向けたスキルの見える化を試行	データ活用		●	●	12
関係人口創出を目指す地域活性化へのデジタル技術活用	データ活用		●	●	13
スモールスタートによる最適かつ効果的なデータ活用を支援	データ活用		●		14
授業データと教務データの統合・分析による「教育の質向上」支援	データ活用		●		15
AIによる探索サービスのこれから	データ活用	●	●	●	16
教育現場のニーズに沿ったデジタル教材を提供	学習支援	●			17
先端技術を活用した遠隔教育プロジェクト	学習支援	●			18
大学 DX を支える基幹サービス	学習支援	●	●		19
業界団体と連携した DX 人材養成のモデルカリキュラム構築を支援	学習支援		●		20
「Web ギャラリー」で収蔵品の魅力を最大限に	学習支援			●	21
教育 DX 推進に向けた人材育成 (山梨県教育委員会)	人材育成	●			22

コラム

未来に向けたチャレンジ

対話を通じ未来への力を
醸成する取り組み 34

多様な職場体験や
キャリア教育の場の提供 35

ビジネスの現場での、
実践型育成プログラム 36

富士通グループの挑戦

移住型「地域デジタル人材」派遣で
お客様・地域・日本を変革！ 37

社内起業家育成と
新規事業創出を目指すプログラム 38

富士通グループの実践

富士通グループの人材育成 39

富士通グループの働き方改革 40

小中高 大学 社会

「神山まるごと高専」と富士通のコラボ 共にイノベーションを生み出す！	人材育成		●	●	23
社会の課題解決に貢献する人材育成	人材育成	●		●	24
イノベーション創出を目指した高度女性 IT 人材の育成	人材育成		●	●	25
SDGs を未来へつなげる川崎フロンターレ SDGs すごろく	技術・プログラム・創造	●		●	26
世代や文理の枠を超えた、「AI 倫理の産学連携」	技術・プログラム・創造		●		27
安全安心な鉄道利用に向けた「エキマトペ」	技術・プログラム・創造	●		●	28
プログラミングで地域課題解決や子どもたちの成長機会創出を支援	技術・プログラム・創造	●		●	29
利便性の向上と業務効率化によるサービス拡充	技術・プログラム・創造		●		30
スポーツの楽しさを伝え、互いに学び合う心を育む	スポーツ	●			31

Fujitsu Technology and Service Vision

Fujitsu Technology and Service Vision (FT&SV) は、テクノロジーの未来洞察のストーリーで、世の中の動向に合わせて毎年アップデートしています。お客様やパートナー様とともにどのような未来を実現したいのか、その実現にテクノロジーがどう貢献するのか、そして富士通がどのような価値を提供するのかをご紹介します。

今、テクノロジーが、私たちのビジネスや社会を大きく変えようとしています。その変化の中心にはAI技術の急速な進化があります。また、気候変動や経済格差といったサステナビリティの課題が、ビジネスの持続可能性にも大きな影響を与えています。

これからは、事業の成長とともに環境や社会へ価値を提供するビジネスへと変革することが求められます。そして、富士通は、デジタルテクノロジーを活用することで、サステナビリティ・トランスフォーメーションを実現することを推進しています。

FT&SV2024では、独自の調査や研究・事業開発の活動をベースに、AIを中心としたテクノロジーがどう進化するのか、そのテクノロジーの力をどのように活用してビジネスを変革し、ビジネスや社会のサステナビリティを高めていくのかに関する洞察を提供しています。



Fujitsu Technology and Service Vision
<https://www2.fujitsu.com/jp/vision/>



1 未来を築く学び

社会の変化

予測のつかない社会で 変化に立ち向かう

10年後、私たちはどんなふうに住んでいるだろうか？

リンダ・グラットン教授が著書の中で述べているように、グローバル化や、エネルギー・環境問題の深刻化、たえず続くテクノロジーによる革新によって、私たちの暮らしは変化し続けています。

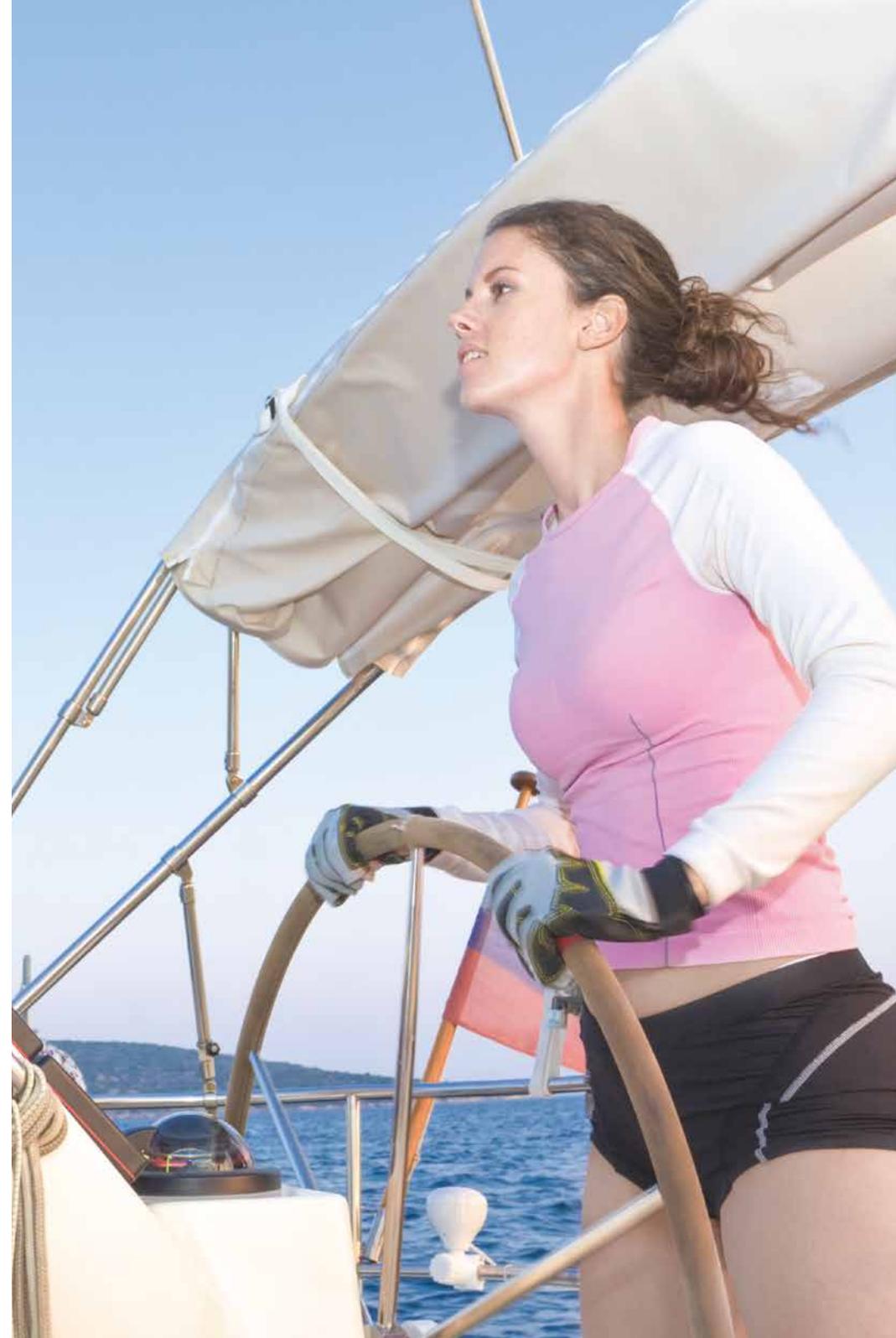
テクノロジーの進展とボーダレス化は、組織を越えた個人の力の発揮や、共通の関心を持つ人々との自由なつながりを促します。また身のまわりにある様々なモノもネットワークでつながり、そこから生み出される膨大な情報が、これからの価値の源泉になると考えられています。

変化はとどまることなく急速に進み、未来の社会は今の延長線上にはありません。COVID-19により、困難で複雑な世界に拍車がかかっています。

人は予測のつかない社会で変化に立ち向かい、新たな解を見出していきます。そして、未来を築きあげていくのです。

* リンダ・グラットン教授

ロンドン・ビジネススクール、人材マネジメント論の世界的な権威。
著書に「未来企業」、「ライフ・シフト」、「ワーク・シフト」ほか



富士通が考える学び

学び続ける人が 未来を築く

私たちはみな生まれながらにして学習者です。

年代や場所、文化に関わらず、
あらゆること・人から学び続けようとする行動が、
私たちのDNAに深く刻み込まれています。

物事の本質をとらえて理解すること、
その理解を自分の力として実践すること、
多様な人と議論をしながら協働すること、
そしてその過程を楽しむこと。

これらをたえず続けることにより、
今までにない新しい価値を創造し、
よりよい社会を実現することができます。

富士通は、学びを通して一人ひとりが夢に挑戦できる未来を、
みなさまと共に創っていきたいと考えています。



2 学びのために富士通ができること

富士通が考える大切なこと

富士通の歴史は、お客様と共に新たなことに挑戦してきた歩みです。

富士通は新たなテクノロジーを研究・開発し、それらを通じて社会の課題を解決し、日々の生活をより豊かにすることを目指してきました。

予測のつかない社会で人が学び続けるために、富士通はテクノロジーを通じて、人の学びをより身近なものに変えていきたいと考えています。

このとき、富士通が大切だと思っていることは、

探究、挑戦、協働、そして、創造です。



探究



挑戦



協働



創造

探究

Learn by Exploring
物事の本質を問い、探究し続ける



探究の出発点となる機会をつくります

最先端の学びに触れる機会や
実社会に触れることのできる場を提供します

富士通は最新の技術に触れて未来を描くための場や、インターネットでいつでもだれでも参加できるオープンな学びの場を提供し、「未来への気づき」のきっかけづくりに貢献します。

「わかった!」そして「次は何をしよう?」という探究の心を育むことを大切にしています。知識を実社会と結び付けて学び、今までの知識と組み合わせて活用するような、アクティブ・ラーニングの視点に立った学びの環境づくりを支援していきます。

挑戦

Learn by Challenging
未知の体験に思い切って飛び込む



挑戦を後押しします

挑戦し評価される場を創出すると共に
社会の一員として富士通自らも挑戦します

新たに挑戦することや挑戦する人を後押しします。各種コンテストへの支援やアイデアソンなどのイベントを開催し、様々な人の挑戦をサポートしています。

富士通自身も次世代のコンピュータの開発や、人工知能 (AI) の研究のような、困難であってもこれからの社会を変えていく夢のある未来創造へ取り組んでいます。より豊かな社会づくりを目指し、失敗を怖れず、あくなき挑戦を続けます。

協働

Learn by Collaborating
他者と目標を共有し、力をあわせ活動する



多様な人と共創できる場を提供します

コミュニティを作るためのサービス・ソリューションや異文化に触れることのできる場を提供します

多様な立場の人が意見を出し合い、共有・議論して新しい発見をしながら解決策を見つけていくことを、サービス・ソリューションの提供やワークショップの企画・開催などを通じて支援していきます。

オンライン上で実際の付箋や模造紙、ホワイトボードを使っているように遠隔地と議論することもできます。時間や場所を越えて多様な人と協働することが可能になり、様々な意見、考えに触れて、新しいことを生み出す可能性が広がります。

創造

Learn by Creating
アイデアをかたちにする



思いを言葉やかたちにします

考えをまとめるプロセスを記録し表現しやすくするサービスやアイデアをかたちにし発表する場を提供します

教育現場では自らのアイデアを形にし、発信力や表現力を磨く活動が実施されています。しかし、現在はその成果やプロセスが記録として残りにくい状況ではないでしょうか？

富士通は ICT によって、成果やプロセスを記録し活用することを支援します。それにより、学ぶ人が多くの気づきを得たり、成長の変化を把握することで、学習意欲の向上とその持続性を保ち、さらなる学びにつながっていくと考えます。

3 富士通の取り組み



大学技術職員の活躍に向けたスキルの見える化を試行

デジタル庁 Trusted Webユースケース実証事業

富士通はFujitsu Uvanceを通じて世界が抱える社会課題の解決を推進しています。その取り組みの一環として、2023年度内閣官房およびデジタル庁にて推進しているTrusted web*実証事業に選定され、国立大学法人琉球大学とともに表題のテーマに取り組んでいます。**デジタル社会における新たな信頼の仕組みが、新しい価値を生み出す**という共通の命題を掲げ、様々な団体がTrusted webの実現に挑戦しています。

富士通Japanでは、日本の労働力不足という観点に着目し、世の中には様々な経験やスキルを持つ人材がいる一方で、働くことができていないといった問題に対してマッチングに課題があると考えました。特に**大学における技術職員の地域や社会での活躍**において共通の課題認識を持つ琉球大学とともに本取り組みを推進するに至っています。

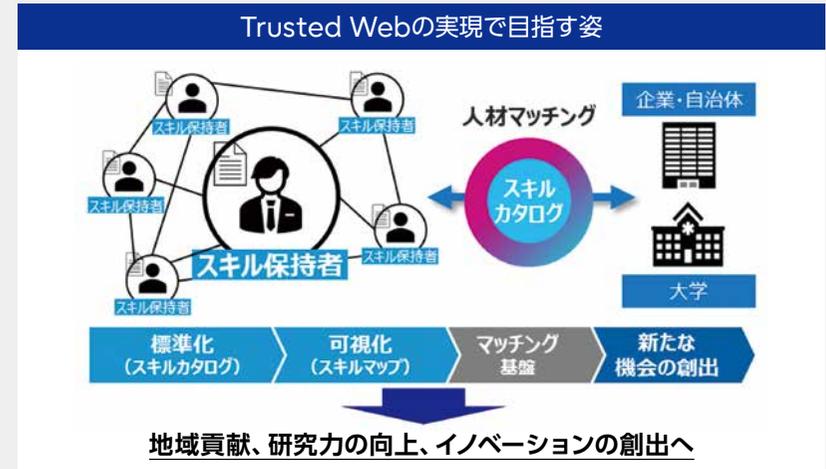
今回の取り組みでは、協力事業者である琉球大学を対象に、大学技術職員の資格やスキル、実績などを体系化したスキルマップ（右中段の表）を作成するところから始めました。その後、全国の技術職員や企業を対象とした勉強会を開催し共感された大学や企業とのディスカッションを通じて課題を抽出、ブラッシュアップを続けています。

本実証を経てTrustのある仕組みづくりには単一の大学だけでは実現が困難であり、さらには大学の位置する地域の企業、自治体を始めとする**多様なステークホルダーと手を取り合って推進することが不可欠**であるとわかりました。

また、本取り組みの先には**大学技術職員の活躍により地域や社会への貢献、研究力の向上、イノベーションの創出につながる**と考えています。

今後は、賛同いただけたステークホルダーとともにユースケースの実現に向けて取り組みを加速させていきます。

*Trusted Web：特定のサービスに過度に依存せずに、データ自体とそのやり取り（流通）を検証可能な領域を拡大し、Trust（信頼）を向上する仕組み（<https://trustedweb.go.jp/about/>）



職務	能力	スキル
1. 作物管理	11. 作物の状況に応じた施肥・薬剤散布のタイミング	技術スキル 作物状態の見極め 状況に対応する知識
	12. 天気に応じた灌水や作業の判断	関連知識 気象情報の活用
	21. 周辺を観察して対応する	技術スキル 知識を行動に反映する応用力
2. 環境整備	22. 天気や状況から判断して予め対策をたてる	方法論 周辺の観察と判断 技術スキル 予測、対策する力 機械操作（また機械使つかの判断力）
	31. 農業を正しく安全に使用できる	方法論 農業の希釈方法
3. 農業管理	32. 農業の使用記録と在庫管理を正しくできる	方法論 農業の記録作成
	33. 症状を見極め、判断することができる	技術スキル 作物の観察と症状判断
	41. 業務に必要な機械の操作ができる	技術スキル 機械操作の資格
	42. 機械のメンテナンス技術	技術スキル 機械の点検
4. 機械関係	43. 危険を予測し、周囲の安全を確保した操作ができる	技術スキル 危険予防(事故防止)安全運転
	51. 市場動向を把握する	関連知識 市場動向把握
	52. 在庫状況を把握する	方法論 在庫情報
5. 在庫管理	53. 資材の在庫管理能力	方法論 在庫記録と整理能力
	54. 収穫物の在庫管理能力	方法論
	61. 作物の知識・情報から作付け計画を立てる事ができる	技術スキル 作物の知識・情報から作付け計画を立てる事ができる
6. 運営計画	62. 作業を記録し、共有・活用することができる	技術スキル 作業を記録（データ化）し、共有・活用することができる



上：Trusted Webの実現で目指す姿
中：スキルマップ案
下：作成の様子



大学技術職員の活躍に向けたスキルの見える化：スキルの質保証と主体的情報開示の試行（富士通Japan（株））
<https://trustedweb.go.jp/news/5qkylw71ybik>



関係人口創出を目指す 地域活性化へのデジタル技術活用

金沢工業大学 イベント「金澤月見光路」にて
富士通のWeb3技術を活用したユニークなNFT*を発行

地域では少子高齢化により、地域づくりの担い手不足が大きな課題となっています。昨今、地域活性化に向けては、移住した定住人口や観光で訪れる交流人口だけではなく、**居住地に関わらず地域と多様に関わりを持つ関係人口が新たな地域づくりの担い手になり得る**として、注目が集まっています。

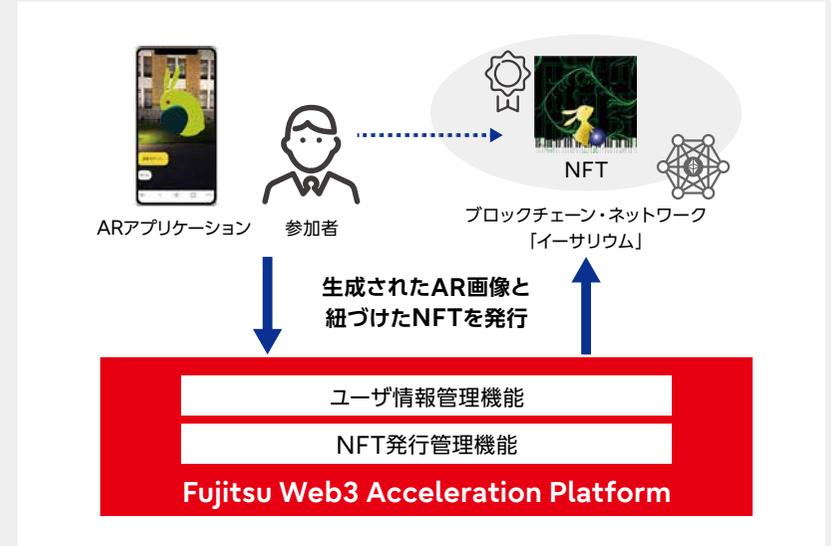
富士通Japanと金沢工業大学は関係人口の創出を目指した産学連携の施策を推進、今回、**富士通のWeb3技術を活用したNFT発行の取り組みを実施**しました。

金沢市で開催した「金澤月見光路」に出展する体験イベント「Connect Kanazawa 2」において、金沢工業大学が制作したARアプリケーションを起動し、Webアプリを通してイベント会場を見ると、ウサギがスマートフォンに現れます。ウサギをタップすると**その時のプロジェクションマッピングのイメージとウサギから画像が生成され、NFTが発行**されます。これまではパブリック型ブロックチェーン・ネットワークであるEthereum（イーサリアム）上でのNFT発行が人気でしたが、専用のウォレットアプリの利用が必須となるため、一般ユーザーには難しいといった課題がありました。この課題に対して富士通の「Fujitsu Web3 Acceleration Platform」では、Webベースのウォレットサービスを提供することで、**NFTの発行やNFTを保有するユーザー自身の情報活用なども簡単かつ安全**に行えるようにしました。

今後、富士通Japanと金沢工業大学は、NFTが地域の様々なサービス事業者に向けたサービス展開に有効であるかを検証し、**観光地への再訪や関連商品の購入を行うファン層のユーザー拡大を図ることで、地域の関係人口増加**を目指します。

富士通Japanは、NFTやWeb3などのデジタル技術を活用して、地域の社会課題解決に貢献していきます。

* NFT: Non-Fungible Token (非代替性トークン)



上：NFTシステム構成図

下：イベント当日の様子。会場となった「しいのき迎賓館」（画面左）
ARアプリの使い方を説明（画面右）



富士通Japan、金沢工業大学と地域活性化に向けたデジタル技術の活用に関する取り組みを開始
<https://www.fujitsu.com/jp/group/fjj/about/resources/news/press-releases/2023/1002.html>



関係人口の創出が鍵となる。
金沢工業大学と富士通による地方創生への第一歩
<https://www.fujitsu.com/jp/microsite/fujitsutransformationnews/2024-01-15/01/>



スモールスタートによる 最適かつ効果的なデータ活用を支援

PoC* (Proof of Concept) サービス実施による計画の立案

社会におけるデータの重要性が増す中で、大学でもデータ分析・活用に関する取り組みが求められています。

しかしながら、**大学におけるデータ活用には課題が多く、まだまだ実践が進んでいないのが現状**です。

主な原因として、活用にはデータの前処理が必要、専門的な知識のある人材が不在で運用の進め方がわからない、うまくいかなかったときのリスクを考えると投資できないなどの理由が挙げられます。

これらの課題を解決するために、富士通Japanは**70以上の大学でのIR支援実績を元**に有償PoCサービス（以降PoCサービス）を提案しています。

当社のPoCサービスは、大学IRを進めるうえで実データを使用して分析の有用性を検討する実証サービスです。豊富な経験を持つプロフェッショナル人材が、各大学におけるデータ活用の目的を明確にしたうえで利用できるデータを選定し、既存データを活用した分析を行います。低予算かつ小規模で仮説検証を行うことができるPoCサービスを通じて、**お客様とともに、最適で効果的なデータ活用計画を立案**します。

富士通Japanは、単なるシステムの導入提案に終わらず、今後も未来を見据えた提案活動に取り組んでいきます。

*PoC：新しい手法などの実現可能性を見出すために、システム導入前の検証を指す言葉

年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
フェーズ	立ち上げ	本格運用	運用拡大	評価・見直し	活動深化
概要	<ul style="list-style-type: none"> 活動計画策定 基本データ選定 分析基盤準備 	<ul style="list-style-type: none"> データ収集 データ分析 学内発信 	<ul style="list-style-type: none"> 広域データ収集 分析高度化 分析基盤拡張 	<ul style="list-style-type: none"> 活動成果の評価 活動の見直し 次フェーズ準備 	<ul style="list-style-type: none"> 新領域着手 貢献
プロジェクト	活動項目 A	タスク a		タスク g タスク h	
	活動項目 B	タスク b タスク c		タスク i	
	活動項目 C	タスク d			
	活動項目 D		タスク e タスク f		タスク j
体制	IR 推進室	IR 推進室+α	IR 推進室+α	IR 推進室+α	IR 推進室+α

PoC サービスの活動計画立案イメージ



Fujitsu 文教ソリューション 大学IR
<https://www.fujitsu.com/jp/solutions/industry/education/campus/management/>



授業データと教務データの統合・分析による「教育の質向上」支援

オンライン授業の拡大により、学修データの収集・蓄積が進展

ニューノーマル時代を迎え、大学の授業は対面とオンラインの組み合わせによる**ハイブリッド型授業**が定着しつつあります。

ハイブリッド型授業の浸透に伴い、学生の授業への参加意欲、課題への対応履歴、オンラインテストの結果などの**重要な学修データが容易に収集可能となり、データを活かした学修者一人ひとりに最適な学びやサービス提供が可能**になっていきます。

これらの学修データの具体的活用を契機として、今後、データに基づき大学経営や教育の改善を推進していく**「大学IR (Institutional Research)」がさらに進展**していくものと考えます。

富士通Japanは、高信頼の大学教務ソリューションならびに全学利用に最適な学修支援ソリューション、さらに両システムの活用を通じて得られる「学修データ」の統合、分析を支援する統合データベースの提供により、大学IRに貢献します。

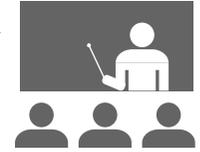
LMSデータ

- ・挙手、発言
- ・課題対応履歴
- ・学びチャート
- ・授業履歴
- ・教材情報



教務データ

- ・入試
- ・学生基本情報
- ・履修、成績
- ・授業評価
- ・アンケート
- ・就職
- ・出席



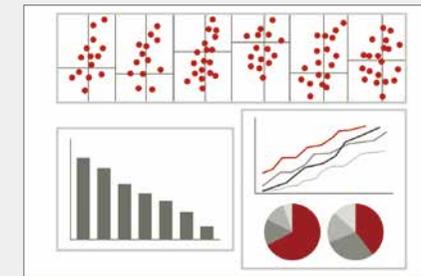
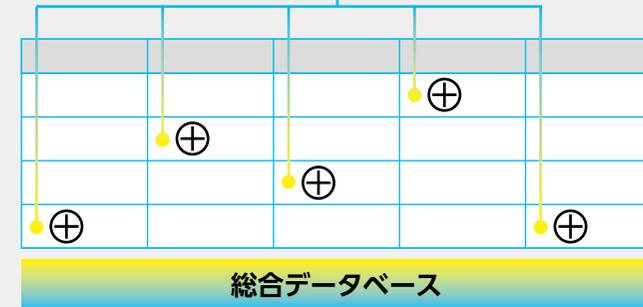
収集ファイルA

収集ファイルB

CSV

マップ・変換

XLS



成績と非成績データの相関を分析したイメージ



Fujitsu 文教ソリューション 大学IR
<https://www.fujitsu.com/jp/solutions/industry/education/campus/management/>



AIによる探索サービスのこれから

新しい学習支援の創出を目指す青山学院大学との共同研究

従来型の図書館システムはキーワードマッチング方式で高速検索を行い、対象を絞り込むことにより、条件に合致する資料を見つけ出すことを追求してきました。

新たに開発した蔵書探索AIは文献検索の際に本のタイトルや著者が定まっていなくても、**日常的に使っている言葉の入力で本を探索**できます。また探索結果として表示された本を選択し、さらに**AI探索を繰り返すことで関連する本への発散的なアプローチ**ができる特徴があります。これは書誌データをはじめとする資料情報をAIが学習して関連度を評価し、評価値の高い本を提示する仕組みとなっているためです。利用者は求める本へと対話的・拡散的にAIの支援に導かれ、曖昧なニーズからでも資料に辿り着くことができるようになっているので、最終的には潜在的な興味関心から顕在化した資料を選び取ることに繋がります。選んだ本は図書館システムから予約できるため、利用者に**今までにない読書のきっかけを提供**できる仕組みとなっています。

この仕組みは、蔵書探索サービスとして提供を開始していますが、その中核になるAIロジックは本以外にも様々な対象を教師データにすることができます。例えば大学においては論文情報や研究者情報、シラバスなど、散在する学内知を横断的に「AIが探索」することで、新しい学習支援を創出できます。

本プロジェクトではこれまでの成果をいかしたAIサービスの開発と、近年急速な進化を続けるLLM*の活用、新たなAIとの連携など、教育分野における価値創出を目指して共同研究を続けていきます。

*LLM: 大規模言語モデル

共同研究参画者: 青山学院大学 革新技術と社会共創研究所 副所長 野末 俊比古
<https://www.aoyama.ac.jp/research/research-center/project-research-inst/itst>



蔵書探索システムでの結果表示イメージ



富士通Japanと青山学院大学、AIを活用した蔵書探索システムを開発し、横浜市立図書館に導入
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000221.000093942.html>



大学図書館の次世代型サービス実現に向けた青山学院大学との共同研究
～AIを活用した学びの支援～
<https://www.fujitsu.com/jp/solutions/industry/education/seminar/csken-library-202107/>



小中高

教育現場のニーズに沿った デジタル教材を提供

ICTの日常的な活用を目指して
「Fujitsu 初等中等教育向けデジタル教材提供サービス」

GIGAスクール構想が本格化している中、教育活動において教員や児童生徒が日常的にICTを取り入れていくためには、これまでの授業で使用してきた教材をスムーズにタブレットで活用できる環境が重要であると富士通Japanは考えます。

デジタル教材提供サービスは、**学校教育に寄り添ってドリルやテストを販売してきた教材会社の優れた図書教材*をデジタル化し、児童生徒がタブレットで学習できるサービス**です。

その場で自動採点が可能であり、間違えた問題を確認しながら納得いくまで繰り返し学習できるので、学習の定着化、児童生徒のより主体的な学びが期待できます。

教員はリアルタイムで全体の状況を確認し、必要に応じて、解答画面を通じて児童生徒に個別にコメントするなど、丁寧な支援が可能になります。さらにクラウドサービスとして提供しているため、場所を問わずに利用できます。

実際に利用している学校の先生方からは、

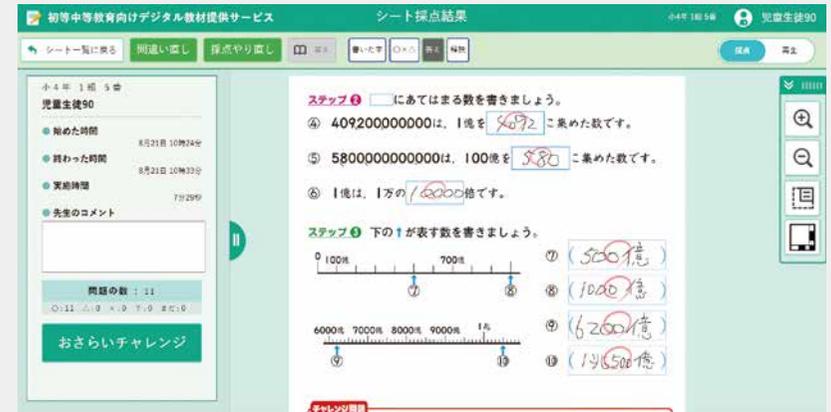
「子どもたちが家庭で何時間学習しているかがわかります。正答率が低い子どもには、個別に復習を指導しています。子どもたちが学校外でどのように学習しているか把握し、**個に応じて指導・支援**できることがメリットだと感じています」

「いつでも、どこでも、採点とフィードバックができるので**教員の働き方改革に効果**を感じています」

といった声をいただいています。

富士通Japanは、今後も教育現場に寄り添ったサービスを開発・提供していきます。

*図書教材：全国の小・中・高等学校で採用されているテスト、ドリル、ワーク、資料集などの学校用教材。学習の初期導入や学習内容の習熟、評価に利用される。



ドリル別集計

2022年度 小4年 1組 算数 ペン算のドリル 小4 算数 2022年4月7日 ~ 2022年4月8日

正答率100% 89%以上 60%以上

シート番号	問題1	問題2	問題3	問題4	問題5	問題6	問題7	問題8	問題9	問題10	問題11
11	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
12	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
13	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
14	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
15	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
16	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
17	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

上：児童生徒の学習画面のイメージ
下：教員の学習状況確認画面のイメージ



Fujitsu 初等中等教育向けデジタル教材提供サービス
<https://www.fujitsu.com/jp/solutions/industry/education/school/learning/digital-kyozai-pf/>



導入事例：小学校でのICTの日常使いと学習の定着化を目指したデジタルドリル活用法
<https://www.fujitsu.com/jp/imagesgig5/hasuike-hayashima-school.pdf>



小中高

先端技術を活用した 遠隔教育プロジェクト

誰一人取り残さない教育、Society 5.0時代の
質の高い教育を目指して

社会課題であるSDGs*1 目標4「すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供」では、誰一人取り残さない教育の達成に向けた対応が世界的に求められています。また、文部科学省は、Society 5.0時代の質の高い教育の実現のため、これからの教育現場には5G、VR*2なども含めた先端技術の活用を推進しています。

誰一人取り残さない教育の観点で見ると、院内学級の児童生徒は、病院を出ることができず、校外学習などへの参加機会に制約があり、心身の成長に必要な基礎的な体験が不足がちになる課題があります。

そこで、関西学院大学と富士通は、水族館や特別支援学校などの協力を得て、病気などにより校外学習参加が困難な児童生徒を対象に、**5Gでの高精細映像伝送、VR、水中ドローンなどの先端技術を用い、水族館と院内学級をリアルタイムで結んだ遠隔校外学習の共同研究を実施**し、海や生き物への学びを深める体験を提供しました。

結果、新たな体験創出により**子どもたちの生きる力の向上へ寄与**するとともに、**これからの時代に有用な先端技術を活用した教育指導方法の可能性**を見出しました。

今後も富士通は、5Gや高精細映像伝送などのICT技術を活用し、すべての人々へ質の高い教育の提供を目指して貢献していきます。

*1 SDGs: Sustainable Development Goals 2015年に国連で採択された持続可能な開発目標

*2 VR: Virtual Reality 仮想現実



院内学級と水族館を結んだ遠隔校外学習の様子



関西学院大学と富士通、5Gを活用した遠隔教育の実証実験を実施
<https://pr.fujitsu.com/jp/news/2020/02/28.html>



5Gによる遠隔教育をデザイン 水族館と院内学級をつないだ体験学習
<https://www.fujitsu.com/jp/about/businesspolicy/tech/design/activities/5gdisteduc/index.html>



大学DXを支える基幹サービス

Fujitsu 文教ソリューション Campus-Xs

近年、リカレント・リスキリングが政府戦略に盛り込まれ、社会人の学び直しに注目が集まる動きや、遠隔授業で修得できる単位数の上限が一部緩和される見通しとなるなど、学修者のニーズに合わせた柔軟な教育環境の提供が大学に求められています。このような環境変化に対応すべく、富士通Japanは「**Shifting to Learner-Centric with you**」をコンセプトに大学DXを支える基幹サービス「**Campus-Xs**」を提供し、学修者本位の教育実現を支援しています。

学修者本位の教育実現には、「**職員の業務スリム化**」と「**学びの個別最適化**」の両輪が必要だと当社は考えます。

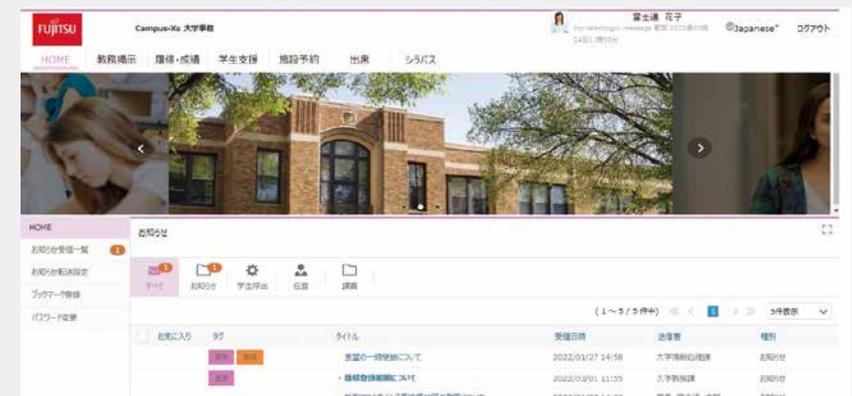
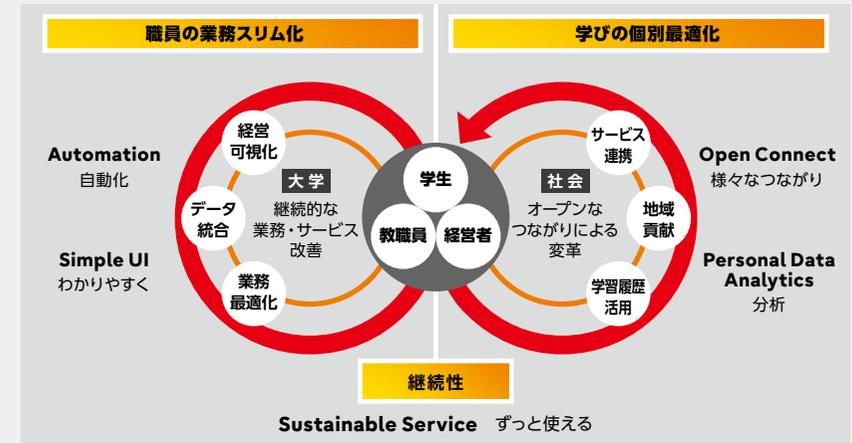
「Campus-Xs」は、**SaaS型大学基幹システム**としてご提供しています。これにより**短期間での導入が可能**で、ハードウェアやOSの寿命にとらわれることなく**長期利用**が可能です。また定期的なレベルアップにより常に最新の環境を利用可能となり、システムの調達や運用・管理などの**業務負荷が大幅にスリム化**されます。

また、多学期制を含む多様なカリキュラムに合わせた**柔軟な大学運営にも標準対応**するなど機能強化を図っています。さらに大学事務とLMS*を統合したことで、成績などの結果に加え、学生の学修行動に係るデータもまとめて**一元的に蓄積・管理**することが可能となっています。これらの**エビデンスデータを活用し、学びの個別最適化を支援**していきます。

今後は地域や他大学との連携に向けて、学内外の学修機会のマッチング支援や、大学間連携、学修履歴のデジタル化とその活用促進を通じて、知の拠点となる大学のDX推進を支援していきます。

*LMS: Learning Management System

Shifting to Learner-Centric with you



上: 「Shifting to Learner-Centric with you」コンセプトイメージ
下: 「Campus-Xs」のポータル画面イメージ



Fujitsu 文教ソリューション Campus-Xs

<https://www.fujitsu.com/jp/solutions/industry/education/campus/business/campus-xs/>



大学ソリューション 導入事例

<https://www.fujitsu.com/jp/solutions/industry/education/campus/case-studies/>

業界団体と連携したDX人材養成のモデルカリキュラム構築を支援

日本工学院専門学校・日本工学院八王子専門学校
フィールド・イノベーションをいかした業務支援サービスの提供

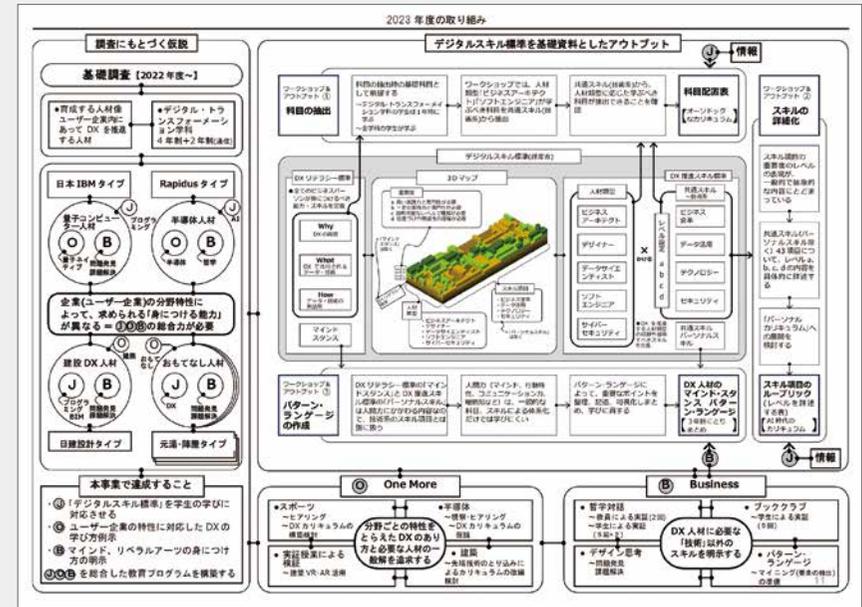
学校法人片柳学園が設置する日本工学院専門学校・日本工学院八王子専門学校では、ITカレッジの教員が中心となり、2022年度から文部科学省「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」の一環で、DXに求められる知識や技能を明らかにして、効率的にそれらを習得できる教育モデルの構築に取り組んでいます。

具体的には、様々な業界・企業の中でDXを推進できる学生を育成するためのモデルカリキュラムの作成と、実証授業での検証を進めています。そこから専門学校としての特色をいかした、現場で活躍できる学生の輩出を目指します。

富士通Japanは、教職員と協働して企業などへのインタビューや先行事例を調査して、社会が求めるDX人材に必要とされる様々なリテラシーやスキル、マインドセットを養うことに重点をおいた学生向けモデルカリキュラムの作成を支援しています。

また実証授業においては、学生の協力も仰ぎ従来の教育方法に囚われず、新たな発想を積極的に取り入れようとする教員の試みに対して、授業観察や学生アンケートからの効果分析を行いフィードバックをしています。

目的の達成には教職員だけでなく、「第三者の視点も入れた客観的な気づきや評価が重要である」という、学園の従来からの考えに沿い、富士通Japanはこの取り組みに、DX企業としての知見に加え、教育分野で培ったフィールド・イノベーションの知識や技術を提供して現場でのプロジェクトの推進を支援しています。



上: 取り組みの全体概念図のイメージ
下: 「パターン・ランゲージ」クラスタリングの様子



日本工学院専門学校・日本工学院八王子専門学校
<https://www.neec.ac.jp/>



大学ソリューション 導入事例
<https://www.fujitsu.com/jp/solutions/industry/education/campus/case-studies/>



社会

「Webギャラリー」で 収蔵品の魅力を最大限に

デジタルアーカイブシステム 「Musetheque(ミュージテーク)」

博物館や美術館ではこれまで来館者向けに各種展示会を行ってきましたが、物理的な空間スペースの制約もあり、展示されることのない収蔵品も多いという課題がありました。また貴重な郷土資料などを保存していても、閲覧の機会そのものがありませんでした。

デジタルアーカイブシステム「Musetheque(ミュージテーク)」は、収蔵品を検索できる情報公開システムをはじめ、特長の1つである「Webギャラリー」によりこれらの課題を解決します。

「Webギャラリー」は**テーマやストーリー性を持たせた仮想的な展示を短期間で作成・公開することが可能**です。収蔵品を単体で情報発信するのではなく、関連のある複数の収蔵品に解説を加えて展示することにより、**各収蔵品における別の視点からの新たな発見や感動を利用者にもたらす**ことができ、更なる魅力や価値の向上につながります。また、過去に公開したギャラリーも遡って見ることができます。

実際の**展示に出ることのない多くの収蔵品の魅力を最大限に伝えられることは館そのものの価値を向上**させ、利用者サービスの向上や学芸員のモチベーションを高めることにもつながります。「Webギャラリー」は自宅からの鑑賞に留まらず、**教育現場や図書館・公文書館、企業などでの活用に広がる**ことが期待できます。

デジタルアーカイブシステムは**文化庁をはじめ、交付金を活用した構築が可能**です。例えば文化観光推進法に基づいて認定された交付金を活用し、デジタルアーカイブシステムを構築した栃木県などの事例もあり、今後も多くの交付金が活用できると考えます。



Webギャラリーの画面イメージ



博物館・美術館・デジタルアーカイブソリューション
<https://www.fujitsu.com/jp/solutions/industry/education/social/museum/>



栃木県 導入事例
<https://www.fujitsu.com/jp/solutions/industry/education/social/case-studies/tochigi-pref-digitalmuseum/>

教育DX推進に向けた 人材育成（山梨県教育委員会）

学校現場のDXを知り自分ゴトとするワークショップ

山梨県教育委員会では2023年4月より、学校現場への「文書半減プロジェクト」に取り組まれています。**ねらいは先生方の負担軽減と子どもたちに向き合う時間の確保**です。国や外部からの收受文書に関するスクリーニングと仕分けを行うことで、プロジェクト開始2週間で開始前のおよそ半分に文書の削減を実現*1しています。

富士通Japanは、**プロジェクトがその先に目指す現場の働き方改革および山梨県デジタルトランスフォーメーション推進計画**に基づき、**学校現場のDX推進のヒント**となるワークショップを実施しました。

ワークショップでは、オンライン形式で1回5時間のプログラムを全8回、1回の定員を70名とし、延べ494名の先生に参加いただきました。オンラインで実施することで、他の市町村や校種の先生同士が交流し、DXに関する相互の認識を高める機会となりました。学校におけるDXの推進方法について、他の教育現場の事例やデジタル技術のデモンストレーションを通じて学び、現在の学校現場が直面している課題を共有しました。**これらの課題解決のために、デジタル技術を活用したアイデアの創出を対話を通して行いました。アイデアの発想には、富士通独自開発の「デジテク・カード*2」を使用し、参加者のインスピレーションを喚起しました。**実施されたプログラムは、教育工学に基づき、個々の変革段階に合わせた内容で、DXへの理解を深めることを目指しています。

先生方からは、次のような声が聞かれました。

「今の時代に合う学びを継続し子どもたちに寄り添える教員集団でありたい」

「ワークショップ内でご紹介された“デジタル教材提供サービス*3”や“ローコード”などのツールを実際に使いたい」

富士通Japanは、今後も教育現場の課題解決に向けてのご提案やサービスを提供していきます。



上：デジタル技術体験の画面イメージ（左：自動採点体験 右：ローコード体験）
下：ワークショップでの参加者のアウトプット

*1 2023年4月11日～4月28日までの14日間の状況

*2 実現可能性の高いアイデアを楽しく発想できる「デジテク・カード」が、IAUD国際デザイン賞金賞を受賞

<https://www.fujitsu.com/jp/about/businesspolicy/tech/design/activities/digitechcard/index.html>

*3 デジタル教材提供サービス 17ページ参照



「神山まるごと高専」と富士通のコラボ 共にイノベーションを生み出す!

2023年4月に開校した高等専門学校の学生との
社会課題解決への取り組み

富士通は2023年4月に徳島県神山町に開校した私立「神山まるごと高専」の学費無償化を目的としたスカラーシップパートナーに参画しました。

「神山まるごと高専」は「**テクノロジー×デザインで人間の未来を変える学校**」をコンセプトに、**テクノロジーとデザイン、起業家精神を一度に学べる学校**として設立され、当社が支援している4人の奨学生とともに課外時間を活用して様々な活動を実施しています。

例えば、2023年に公開した学習ドリル「Fujitsu×うんこドリル AIとのつきあい方」の一部である「未来のAIニュースを考えよう」の学習ページを、当社AI研究員やデザインセンターのメンバーとともに執筆しました。

また、当社Mobility事業本部と連携して**地域の交通課題解決**にも取り組んでいます。徳島県神山町では、2023年4月、町営バス廃止と同時に地域住民の移動手段としてタクシー利用助成サービス「まちのクルマLet's」の運行が開始されました。運賃の85%を神山町が負担するというものですが、増え続ける利用者のために、より安定的な財政運営が求められています。そこで、地域交通のトリップデータから移動需要の実態を分析し、効率的な交通利用を実現することにより地域の交通課題の解決に取り組んでいます。今後はデザイン思考のプロセスを取り入れ、住民ヒアリングなどを通じ、**課題の発掘・持続可能な地域交通モデルの施策を検討**していく予定です。

今後もこのように、**学生と当社だけではなく、様々なステークホルダーの方々とともに、イノベーションを起こしていけるようなCO-Learning*の場づくり**を提供していきます。

*CO-Learning：共に学びあう、共同学習



左：富士通社員と活動する4人の1期生
右上：地元タクシー会社へ移動課題についてのインタビューの様子
右下：放課後の時間も活用した会議の様子



神山まるごと高専
<https://kamiyama.ac.jp/>



富士通、神山まるごと高専のスカラーシップパートナーに参画、
奨学金基金へ10億円を拠出
<https://pr.fujitsu.com/jp/news/2022/12/12.html>



ともにイノベーションを!
神山まるごと高専×富士通のコラボがスタート
<https://www.fujitsu.com/jp/microsite/fujitsutransformationnews/2023-10-20/01/>



社会の課題解決に貢献する 人材育成

社員参加による小中高生向け教育支援プログラムの実施

富士通では社会貢献活動の取り組みとして、未来を担う子どもたちに様々な「教育支援プログラム」を提供しています。

「テクノロジーを使って地域の困りごとを解決しよう」は、**中山間地域や離島などの小規模校**とテレビ会議システムを使い、富士通グループ社員が授業を行うプログラムです。小学5-6年生を対象としており、児童が自分たちの住む地域の課題に対して、テクノロジーを使って解決方法を考え、そのアイデアを発表します。従来の知識伝達型ではなく、「**問題発見・解決能力**」の育成を目指した**アクティブラーニング型の授業**を提供しています。

「**デザイン思考で考える富士通SDGsプログラム**」では、未来社会を創造する力の育成を目指し、富士通が社会課題解決に活用している**デザイン思考**を体験でき、**身近にある課題を考える機会**を提供しています。**オンライン授業の利点をいかして、複数校同時に授業を実施することによって、生徒間の情報共有をリアルタイムで行うことができます**。本プログラムは、「**第13回キャリア教育アワード**」で**大賞（経済産業大臣賞）**を受賞しました。富士通グループ社員も講師として参加し、2006年から累計約1,110校、約61,400名の小中学生を対象に実施しています。

「**クエストエデュケーション**」は**現実社会を題材に生きる力を育む探究学習プログラム**です。企業が与えたミッションを中高生が1年間にわたり調査・分析し、アイデアをまとめ提案発表を行うものです。富士通はミッションの提供、審査を通じて子どもたちの挑戦を支援しています。2023年度は95校、約1,600名の中高生を対象に実施しています。

これからも、富士通は教育現場のニーズにあった「教育支援プログラム」を通じて、社会に貢献していきます。



授業の様子



教育支援プログラム

<https://www.fujitsu.com/jp/about/csr/community/society/education/>



イノベーション創出を目指した 高度女性IT人材の育成

Society 5.0時代を牽引する高度女性IT人材を
産学一体で育成していくコンソーシアムの活動

国や地方自治体、企業などにより、様々な分野における女性活躍推進の取り組みが進められていますが、依然として産業による隔りがあり、特に情報通信業の女性割合が低いことが課題として挙がっています。*1

これらの課題を解決するべく、**Society 5.0時代を牽引していく高度女性IT人材の育成を目的として「女子大学生ICT駆動ソーシャルイノベーションコンソーシアム」を産学連携で設立し、定期的にイベントを実施しています。**

これまでの取り組みとして、富士通グループはアプリ開発におけるクラウドサービスの提供やプログラミング授業実施のほか、アイデアソンや地方自治体へのアプリ開発提案、就職活動に関するイベントなどを実施しています。

■アプリ開発ブートキャンプ

アイデア力から技術力まで幅広いスキルを約2週間で習得できるイベントです。全国の女子大学生が集まり、アプリ開発を行います。最終日には就活講座や企業との交流会を実施しました。

■3D都市モデルを活用したモバイルアプリのアイデアソン

Project PLATEAU*2 協力による、3D都市モデルを活用したモバイルアプリのアイデアソンを行いました。

これからも、高度情報社会におけるイノベーションを支援するための取り組みを進めていきます。

*1 東京都生活文化スポーツ局データに見る情報通信業界の「女性の活躍」

<https://www.seikatubunka.metro.tokyo.lg.jp/danjo/houkoku/data/0000002173.html>

*2 Project PLATEAU：国土交通省が主導する、日本全国の3D都市モデルの整備・オープンデータ化プロジェクト



出典：3D都市モデルを活用して子育て支援、避難支援、聖地巡礼、婚活!?
多彩なアイデアが登場した女子大PLATEAUブートキャンプ：
<https://www.mlit.go.jp/plateau/journal/j037/>

上：アプリ開発ブートキャンプ最優秀賞チーム
中：開発したアプリ
下：アイデアソンイベントの様子



女子大学生ICT駆動ソーシャルイノベーションコンソーシアム
<https://wusic.jp/>



「女子大学生ICT駆動ソーシャルイノベーションコンソーシアム」を設立
～情報化社会を牽引する女性人材の育成へ、産学一体で始動～
<https://fjct.fujitsu.com/press-release/20210222.html>



SDGsを未来へつなげる 川崎フロンターレSDGsすごろく

子どもたちが調べた内容をコンテンツ化
Webを通じて体験学習できるデジタル学習プラットフォーム

日本の教育現場では、ICTを活用した新しい教育の実現を目指す「GIGAスクール構想」が推進されていますが、教材不足などの理由からICTの活用に対する課題が存在します。

これに対応するため、富士通と川崎フロンターレは川崎市立下作延小学校と協力し、子どもたちの興味を引く要素（サッカー選手、ゲーム）を取り入れたデジタル学習プラットフォーム「川崎フロンターレSDGsすごろく」を開発しました。

このプラットフォームでは、SDGsに関する「総合的な学習の時間」（以下、総合学習）の結果を「すごろく」形式でコンテンツ化することが可能です。右ページ下の図のように調査、資料作成、発表などの学習プロセスが揃った環境を提供し、この学習プロセスを通じて子どもたちが楽しみながらICTを活用し、SDGsについて考える機会を提供しています。また、学習プロセスの各フェーズで子どもたちの長所をいかす全員参加型の学習機会も創出しています。

この取り組みは総合学習の教材として採用され、学習プロセスを通じて情報収集・整理・分析、ファシリテーションなどの能力向上に寄与しました。また、川崎フロンターレのイベントにおいても1,816名がすごろくを楽しみながらSDGsを学習しました。

今後、2024年4月にSDGsすごろくを総合学習用に副教材化し、オンライン学習教材サイト「フロスタオンライン」を通じて川崎市内の小学校に展開する予定です。さらに、他の自治体や商業施設、スポーツチームへの展開も検討中です。これらの取り組みを通じて、子どもたちの学びの場が広がり、主体的な学びにつながることを期待されています。



調べる／資料にまとめる




SDGsについてまとめる
(クイズ制作も実施)

ICT活用(プログラミング)



まとめた内容をすごろくに反映
(すごろくのカスタマイズも可能)

ファシリテート／発表




ファシリテーターとプレイヤーに分かれて実施(クイズやSDGsのディスカッションなど)

上:「川崎フロンターレSDGsすごろく」の画面イメージ
下:教材での学習プロセスのイメージ



川崎フロンターレと小学生と富士通がピッチの外で協力!?地域のSDGs活性化のための取り組み
<https://www.fujitsu.com/jp/microsite/fujitsutransformationnews/2023-02-16/01/>



フロスタオンライン
 - GIGA端末対応 川崎フロンターレオンライン学習教材サイト -
<https://sdgs.frontale.co.jp/>



世代や文理の枠を超えた、 「AI倫理の産学連携」

教育・研究機関と連携しAI倫理の研究開発・人材育成を推進

AI(人工知能)は人間の知的活動を大幅に向上させる有望な技術と期待されています。一方で、利用用途などによっては思わぬリスクが発生する可能性があり、AIの開発や利用において倫理課題を低減するための重要な観点である「AI倫理」への関心が高まっています。

AI提供者である富士通は、教育・研究機関およびこれからの未来を創る若い世代とともに、**文理の学問領域や世代の垣根を越えて横断的にAI倫理を実践しています。**このような「AI倫理の産学連携」は、すべてのユーザーが安心してAIを活用できる社会を創出するための大切な活動です。以下にいくつかの例をご紹介します。

・お茶の水女子大学との産学連携

同大学は性差の研究が進んでいます。2023年、富士通は同大学と「AI倫理社会連携講座」を設置しました。同大学の社会科学的方法と、富士通研究所による技術的方法を組み合わせ、**ジェンダー課題を解決するための共同研究**を推進しています。

・慶應義塾大学との産学連携

2022年、同大学の知的財産法講義にて「AI倫理の講演」「AI倫理のインターンシップ」を実施しました。AI倫理を実現するための法の効用、倫理リスクを技術的に発見することの有効性について、**法学と工学という異分野メンバーによる研究**を実現しました。

・清泉女学院中学高等学校との産学連携

同校では、有志の生徒たちがAI倫理課題について議論し政府に提言を行う「AI倫理会議」を毎年開催しています。2023年に富士通はこの会議内にて出張講義を行いました。また会社見学も開催し、**若い世代とのインタラクティブな交流**を実現しました。

若いユーザー世代を含め、誰もがAIについて正しい知識を持ちAIの利便性を享受できる社会を実現するために、富士通は**今後も「AI倫理の産学連携」を推進**していきます。



左：「AI倫理社会連携講座」メンバーであるお茶の水女子大学の柏木 志保 准教授
右：慶應義塾大学とのインターンシップ報告会にてコメントを述べられる同大学の君嶋 祐子 教授
下：会社見学に来られた清泉女学院中学高等学校の生徒のみなさま



「AI倫理の産学連携」でジェンダーギャップや文理の違いを超える
～お茶の水女子大学との実践～

<https://www.fujitsu.com/jp/microsite/fujitsutransformationnews/2023-11-30/01/>



「AI倫理の産学連携」で世代や文理の違いを超える
～慶應義塾大学、清泉女学院中学高等学校それぞれとの実践～

<https://www.fujitsu.com/jp/microsite/fujitsutransformationnews/2023-12-07/01/>



安心安全な鉄道利用に向けた「エキマトペ」

共創デザイン×テクノロジーによるDE&I*1 の理解促進を目指して

エキマトペは、駅のアナウンスや電車の音といった環境音を、文字や手話、オノマトペ（擬音語）*2 として視覚的にディスプレイ表示できる装置です。聴覚障害者が必要な情報をタイムリーに感じ取ることができ、安全安心で毎日の鉄道利用が楽しい体験になるように、富士通・東日本旅客鉄道（JR東日本）・大日本印刷（DNP）と、川崎市立聾学校の子どもたちが一緒にアイデアを考え、開発しました。

環境音をマイクで集音し、AI分析でリアルタイムに各種変換して、ホーム上に設置された自動販売機上部の専用ディスプレイに表示します。音情報の視覚化に当たっては、富士通のスーパーコンピュータ「FUJITSU Supercomputer PRIMEHPC FX1000」で構築したAIの学習モデルを活用して識別します。ホームに流れる定型アナウンスは、文字と同時に事前収録した駅社員による手話動画とともに表現され、電車の発着音やドアの開閉音などは、手書きアニメーションで表現されます。さらに、駅社員によるアナウンスを、富士通の「Fujitsu Software LiveTalk」でリアルタイムにテキスト変換し、DNPの「感情表現フォントシステム」を通じて、文章の内容に適した感情豊かなフォントで表現されます。

エキマトペを通じて、「障害」について知り、考えるきっかけを提供するとともに、**2025年に東京で開催されるデフリンピック*3 の機会をいかして、DE&Iの理解促進**を目指します。

*1 DE&I:ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンの略
*2 オノマトペ:様々な状態や動きなどを音で表現した言葉のこと
*3 デフリンピック:聴覚障害のあるアスリートによる国際スポーツ大会(オリンピック)



上:ディスプレイ表示イメージ
中:2022年 JR上野駅
下:エキマトペの仕組み



エキマトペ
<https://ekimatopeia.jp/>



安全安心な鉄道利用に向けた「エキマトペ」の実証実験を開始
<https://pr.fujitsu.com/jp/news/2022/06/9.html>



違いに気づき、寄り添う気持ちを広げたい
～エキマトペ制作メンバー鼎談～
<https://www.fujitsu.com/jp/about/businesspolicy/tech/design/activities/ekimatope/index.html>



小中高

社会

プログラミングで地域課題解決や子どもたちの成長機会創出を支援

B.LEAGUE×富士通による子ども向けプログラミングイベントの開催

子ども向けプログラミングスクール「富士通オープンカレッジF@IT Kids Club（ファイトキッズクラブ）」は、**B.LEAGUEとコラボレーションし、SDGs実現に向け、子どもたちの成長の機会を創出**するため、バスケットボールをテーマにしたプログラミングコンテストおよび体験教室を開催しました。

2022年1月にはALL-STAR GAMEの開催が予定されていた沖縄県で体験教室を実施しました。沖縄県では県民のITへの苦手意識の改善と、子どもたちの創造性を育むことを目的とした未来のIT人材育成を推進しています。今回の取り組みでは**誰にでも親しみやすいスポーツを題材とした質の高いプログラミング教育を提供**しました。プログラミングコンテストでは、B.LEAGUEが持つエンターテインメント力と、F@IT Kids Clubの子ども向けプログラミング教育ノウハウを掛け合わせ、チャレンジしやすい応募テーマにしました。その結果、ITへのイメージを改善し多くの子どもたちの関心を惹くことができました。

今回の活動を通じて、子どもたちは**学ぶことの楽しさに加えて、何か1つのことに挑戦する楽しさも実感**することができました。さらには、学年や経験に関係なくスポーツという親しみやすい題材をベースにしたことで、**ITへの関心や意欲が向上するとともに未来のIT人材創出につながる一歩**となりました。

今後も富士通オープンカレッジF@IT Kids Clubは、様々な分野とのコラボレーションを通じてプログラミング教育の場を提供し続けていきます。



上：体験教室の風景

下：プログラミングのオリジナルカリキュラム



B.Hope Action「DRIVE TO DREAM」[プロチャレ! (プログラミングチャレンジ) supported by 富士通]

https://www.bleague.jp/b-hope/hope-action/action_detail/id=176968



利便性の向上と業務効率化によるサービス拡充

神奈川大学スマートフォンアプリによる 図書の貸出サービスを導入

神奈川大学では、「みなとみらいキャンパス」の開校にあわせ、キャンパス内に「みなとみらい図書館」を開設しました。ビル型キャンパスの収容能力の低さをカバーするため、**図書館外のソーシャルコモンズなど共有部にも配架しています。**
図書館の利便性を向上し、利用者や図書・資料の貸出数の増加を図るとともに、貸出作業を軽減し、そのリソースを対面サービスの強化に充てたいとの課題がありました。

今回、**利用者の利便性向上のため**、教員や学生の多くが所有する**スマートフォン**を利用し、OPAC機能を提供する「Ufinityスマートフォンアプリ」に貸出機能を追加することで、**図書・資料の貸出サービスが貸出カウンターに立ち寄ることなく可能**となり、図書館の**貸出業務の効率化**を実現しました。業務効率化により生まれたリソースをリエゾン・ライブラリアン*を配置した、**相談業務の強化に活用**しています。

Ufinityスマートフォンアプリは、大学図書館パッケージのFujitsu文教ソリューション「iLiswave-J」のOPAC機能をスマートフォンで利用するサービスです。今回、**追加した貸出機能**では、アプリにログインし、スマートフォンのカメラで管理用バーコードを読み取ることで、図書館システムから所蔵データと利用者情報を参照し、貸出処理が実施されます。これにより、**自動貸出機と同等の規則設定**が可能となっています。

今後も、**富士通JapanはDX企業**への変革を加速し、お客様とともに様々な課題解決に向けて積極的に取り組みます。

*リエゾン・ライブラリアン：大学・大学院の教育において、教員と連携して学生の指導に当たる大学図書館司書



対象書籍の管理用バーコードをスマートフォンのカメラで読み取る写真と全体ご利用のイメージ図

*BDS:ブックディテクションシステム

図書館の未手続き持ち出し（無断持ち出し）を防止する装置



神奈川大学導入事例

<https://www.fujitsu.com/jp/solutions/industry/education/campus/case-studies/kanagawa-u/>



学校法人神奈川大学

<https://www.kanagawa-u.ac.jp/>



小中高

スポーツの楽しさを伝え、 互いに学び合う心を育む

Fujitsu Sports

「児童を対象としたスポーツ教室への講師派遣」

富士通アメリカンフットボール部「フロンティアーズ」および富士通女子バスケットボール部「レッドウェーブ」は川崎市に認定された「かわさきスポーツパートナー」として、また、千葉市に拠点を置く富士通陸上競技部は「千葉市トップスポーツ連携推進事業」および「千葉県 ちば夢チャレンジかなえ隊派遣事業」の一環で地域の児童教育を支援しています。

2010年に川崎市で始まった「ふれあいスポーツ教室」では、現役のアスリートが体育の授業にフラッグフットボールやバスケットボールの特別講師として参加。毎年オフシーズンの恒例行事として、夏と冬の年2回、計10校程度の小学校を訪問しています。

千葉市ではスポーツ人口の増加を目指し、千葉県内で活動するトップスポーツチームが学校を訪問する「トップスポーツ連携推進事業」を実施しており、同市で活動している陸上競技部から小学校に選手を派遣し、走り方教室を行っています。

富士通のアスリートは子どもたちに、**身体を動かす楽しさ、仲間と一緒に競い合う喜び**を伝えています。学校の先生からも「これまでコロナ禍で体を動かす機会が限られていたので、こうしたスポーツ教室の重要性は一層高まっている」と期待されています。

困難にぶつかっても簡単に諦めず、勇敢にチャレンジする心をもった子どもたちが育つことを願って、富士通はこれからも活動を続けていきます。



上：フロンティアーズ「ふれあいスポーツ教室」指導風景
中：レッドウェーブ「ふれあいスポーツ教室」指導風景
下：陸上競技部「トップスポーツ連携推進事業」指導風景



Fujitsu Sports

<https://sports.jp.fujitsu.com/>

YouTube

公式チャンネル

富士通の文教ソリューションYouTubeチャンネルでは、サービス紹介の動画をはじめ、お客様の活用事例動画をご紹介します。



FujitsuEducation
<https://www.youtube.com/user/FujitsuEducation>

コラム



対話を通じ未来への力を醸成する取り組み

中高生×富士通 未来の語り場プロジェクト

先の見えない時代に、未来の課題に取り組み、解決していくことは企業や自治体が挑むべき大きな目標です。**しかし、それは今の大人たちだけが考え、答えを決めてよいのでしょうか。**私たちは、日本の社会課題解決について生徒とともに考え、将来をともに語り合うことを通じて、中高生の「**未来を生きる力**」を醸成する「未来の語り場プロジェクト」を進めています。

未来の語り場プロジェクトでは、**自発的に手を挙げた社員が自ら学校との調整や内容の検討、資料作成まで行い、生徒と未来について同じ目線で語り合い、生徒自身の未来に向けた一歩目のアクション**を引き出します。富士通と社員自身の「**パーパス**」を起点に、学校の想いも丁寧にくみ取り「**語り場**」として創り上げます。

2021年9月に富士通Japanからプロジェクトが立ち上がり、これまで全国36校で実施し、約2700名の生徒と未来についての対話を行いました。本プロジェクトは現在富士通グループ全体の取り組みとして活動を広げ、**一人ひとりの生徒と真剣に向き合いながらその輪を広げています。**

中学校や高等学校、少人数や大人数、現地開催やオンライン開催、自治体との連携など様々な状況をプロジェクトとして経験しました。これからも、さらに多くの「語り場」を通じて、日本の社会課題の解決に貢献できるよう継続して取り組んでいきます。



上：各校での対話シーン
下：生徒の「未来への一歩」



「未来の語り場」プロジェクト

<https://www.fujitsu.com/jp/about/csr/community/society/education/dialogue/>



参加デザイナーが語る「未来の語り場」プロジェクト

<https://www.fujitsu.com/jp/about/businesspolicy/tech/design/activities/katariba/index.html>



多様な職場体験や キャリア教育の場の提供

リモートワークの浸透が進む富士通の
「今の現場」を学生が体験

厚生労働省の調査*によると、新卒大学生の約3割が3年以内に離職しており、背景には学生の就業に対する正しい理解の不足などが挙げられています。

富士通では早くからインターンシップに取り組み、毎年300名以上の学生を受け入れ、職業意識の向上と職業選択に役立つ経験につなげています。

■Fujitsu Seasonal Internship

ビジネス体感型「Business Course」、スキル実践型「Technology Course」の2コースを、学生のキャリア形成を支援するプログラムとして実施しています。

各テーマ5日～15日間の中で、IT業界や職業に対する知識や経験を深める機会として活用いただいています。

■Fujitsu Professional Internship

学生の専門性をいかし、実ビジネスの場で挑戦することで、さらなる成長やキャリア形成を支援するプログラムとして実施しています。

富士通と雇用契約を結び、1か月～半年程度で、各領域のスペシャリストとともに実ビジネスに挑戦いただきます。富士通の一員として、よりリアルなビジネスの場で専門性を発揮する機会として活用いただいています。

富士通のインターンシップを通じて、学生自身の専門性や経験を実践の場で試し、学業へも還元いただくとともに、ビジネスの現場で活躍する社員とともに、業務を体験いただくことでより明確なキャリア観の醸成にいかしていただいています。

*厚生労働省の調査：厚生労働省「新規学卒就職者の離職状況を公表します」より

Fujitsu Internship FUJITSU

【有償】 Professional Internship



各領域のスペシャリストと共に、実ビジネスにチャレンジ。1か月～半年程度、雇用契約を結び、富士通の社員として活動いただきます。キャリアの第一歩を踏み出す機会となります。

【無償】 Seasonal Internship



「Business Course」と「Technology Course」にて開催。100を超える様々なテーマから構成されており、参加したいテーマを選択して応募いただきます。最前線で活躍する富士通社員が皆さんをサポートいたします。

© 2024 Fujitsu Limited



上：インターンシップの種類

下：Professional Internship 成果発表の様子



Fujitsu Event/Intern ※随時ページ更新予定

<https://fujitsu.recruiting.jp/fujitsu.com/intern/#section-tab>



ビジネスの現場での、 実践型育成プログラム

社会課題解決に貢献できる、データサイエンティストを育成する「データサイエンス部」

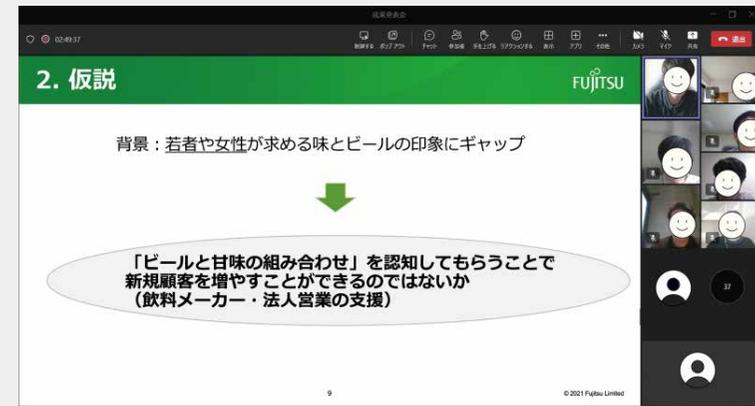
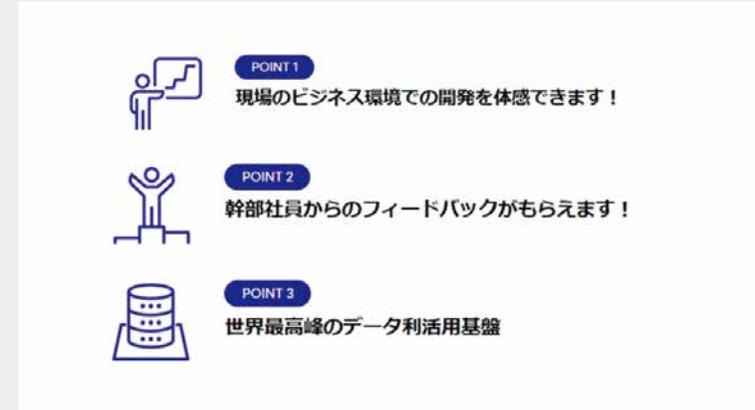
データが競争力の源泉となる現代社会において、企業は、データの統合・活用を通じて新たな価値を生み出す、データドリブンマネジメントが求められています。

データドリブンマネジメントを実践するうえで欠かせないデータサイエンティストを育成するため、富士通は2022年に「データサイエンス部」を開校しました。2023年度は、AIの作成やデータの分析など、プロセスの一部を担うのではなく、**データの収集・整形からビジネス価値の設計・提供まで、全体を担えるデータサイエンティスト育成**を目指して学生向けにハッカソンを実施しました。

参加した学生は、社員とのコミュニケーションを通じて、自分の取り組むテーマが本当に社会課題の解決につながるのかを考え、何度もブラッシュアップを繰り返します。最後の成果発表では、取り組むテーマに対し、データを使ってどのような価値を提供できるのか発表し、フィードバックを受けます。

お客様や社会が抱える様々な課題を、参加学生自らの調査を通じて発見し、**実データに基づく分析**を通じて、仮説立案・解決策提案を行うため、専門知識だけでなく、自分ごととして自身に落とし込むこと、そこから**真に価値のあるアイデアを練り、実行する力**が求められます。

ビジネスの現場で活躍するデータサイエンティストが育成されることで、データドリブンマネジメントが広がり、様々な社会課題の解決につながることが期待されるほか、参加した学生が得た新たな気づきや業務の経験は、その後のキャリア選択にもいかされています。



上：プログラム概要
下：オンライン成果発表の様子



データをビジネス価値につなぐ「真のデータサイエンティスト」
育成のカギ
<https://www.fujitsu.com/jp/microsite/fujitsutransformationnews/2023-07-18/01/>



Fujitsu Event/Intern ※随時ページ更新予定
<https://fujitsu.recruiting.jp.fujitsu.com/intern/#section-tab>



富士通グループの挑戦

コラム

移住型「地域デジタル人材」派遣で お客様・地域・日本を変革！

富士通Japanによる地域移住型DX変革プログラムの挑戦

富士通Japanは、豊かで持続可能な地域社会の実現に向けて、社員を自治体へ派遣*し、**地域の内側からDXによる課題解決の実現を目指します。**

本取り組みでは、全社公募で選ばれた社員が「地域デジタル人材」として地域へ**移住して自治体の要職に着任**します。そして、地域と同じ目線に立ち、ともに考え、学び、議論しながら、DXのスキル・ノウハウを駆使して地域をリードし、ビジョンマップやDX計画の策定などを実施し、様々な地域課題を解決します。

また、地域デジタル人材の円滑な活動推進のため、派遣地域間の情報共有会、専任バックアップなど、富士通Japanとして一貫した体制を構築しました。

2021年から始めた本取り組みは現在17地域20名に拡大し、今後も増加予定です。

将来的には日本全国に広げていきたいと考えています。

【地域課題解決の取組例】

コミュニティDX（北海道 神恵内村）

衰退する地域コミュニティ再生のため、デジタル端末による住民同士のコミュニケーション活性化/高齢者の見守りを実現。教育分野の課題にも着手。

バーチャル市役所（長野県 伊那市）

戦略的シティプロモーションとして、市の魅力をバーチャル空間で探索しながら体験できる、webブラウザで動作するVRコンテンツをリリース。

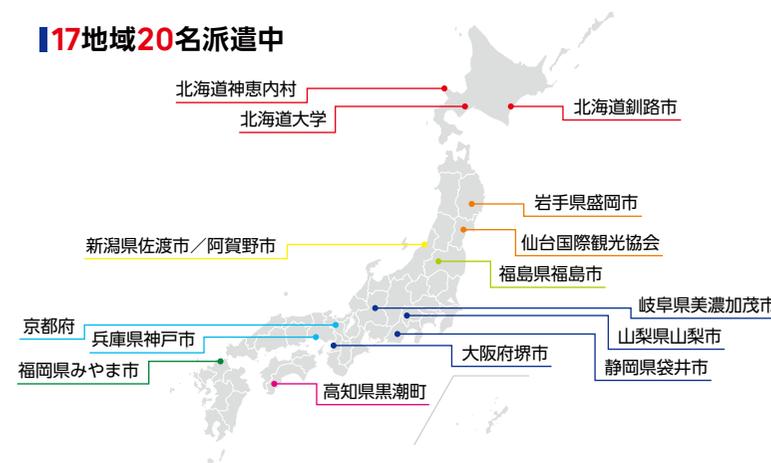
自治体デジタル化推進計画策定（高知県 黒潮町）

自治体の総合計画などをベースに職員から現状の課題を抽出し、デジタル化推進計画を策定。町のホームページにて公開。

*派遣：当社では出向などで対応しています。



17地域20名派遣中



上：地域DX人材の役割

下：DX人材派遣地域



地域移住型DX人材の派遣

～地域DX人材と創る地域の未来～

地域DX人材プロデュース

<https://www.fujitsu.com/jp/about/dx-production/region/>

「DXで北海道神恵内村の人々を幸せにしたい。」

持続可能なまちづくりに取り組む、富士通Japanの挑戦

<https://www.fujitsu.com/jp/microsite/fujitsutransformationnews/2021-11-22/01/>



社内起業家育成と 新規事業創出を目指すプログラム

「Fujitsu Innovation Circuit」

新規事業創出プログラム「Fujitsu Innovation Circuit」は2021年11月より開始した**起業家マインド・スキルをもった人材の育成と新規事業創出を目指すプログラム**です。

起業家教育全米No.1のバブソン大学にて教鞭をとるアントレプレナーシップ*1 准教授山川恭弘氏の全面監修のもと開催される3カ月全11回のワークショップでは、講座・グループ実習・ピッチコンテストなどを通じてイントラプレナー*2 に必要なスキル（共感力、失敗力、実行力、ビジョンを描く力、など）を身につけることを目指しています。本ワークショップには、富士通グループに所属する全世界の社員約13万人誰もが参加することができ、これまで累計約**1,000名**を卒業生として輩出してきました。

また、新規事業創出への意欲とスキルを獲得した人材に対しては、自らの**事業アイデアを成長させ事業化に向けて100%専任できる環境が用意され支援を受けることができるプログラム**も提供しています。

本プログラムにより、**創造的でオープンマインドな思考や革新的な問題解決力、挑戦するマインドを身につけた人材**を数多く生み出すとともに、**新規事業創出のプロセスを実践しながら学ぶ環境を整備**することで、「挑戦が当たり前」、「挑戦する人を全力で支援する」という企業風土の醸成を目指します。

*1 アントレプレナーシップ：起業家精神

*2 イントラプレナー：社内起業家



Fujitsu Innovation Circuitの様子



新規事業創出プログラム「Fujitsu Innovation Circuit」
<https://www.fujitsu.com/jp/innovation/fujitsu-innovation-circuit/>



富士通グループの実践

コラム

富士通グループの人材育成

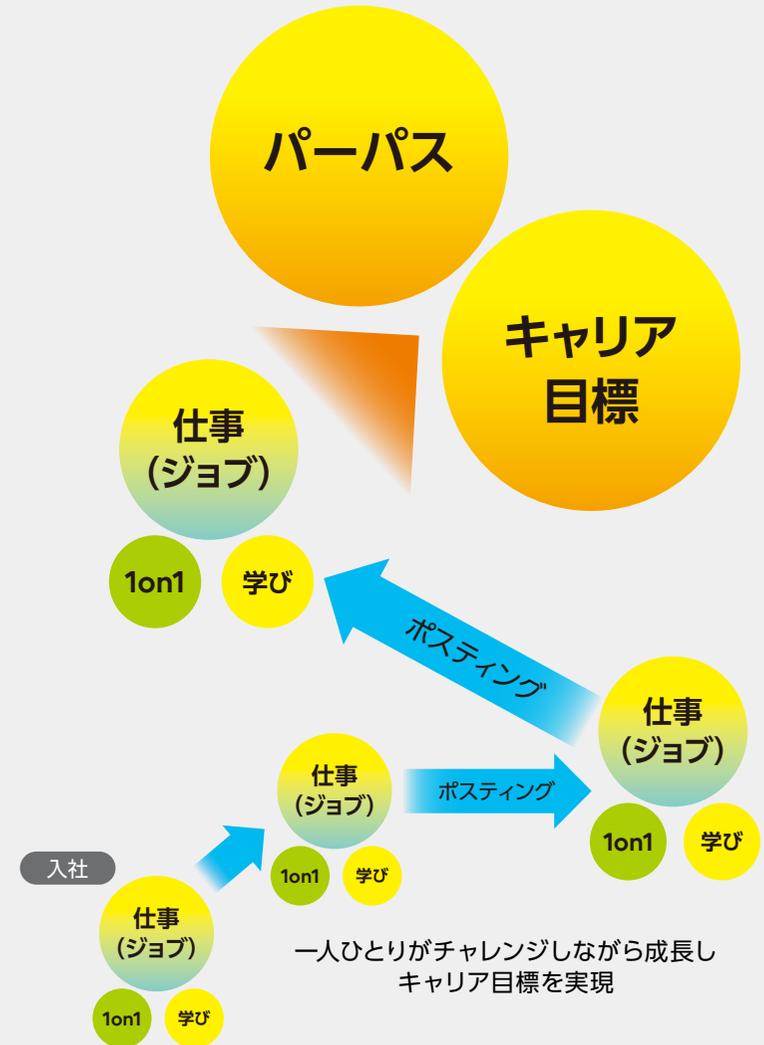
一人ひとりが成長しキャリア目標を実現するために

富士通グループのパーパスは、イノベーションによって社会に信頼をもたらし、世界をより持続可能にしていくことです。テクノロジーで社会やお客様の発展に貢献していくためには「人」が最も重要となるため、**多彩な人材が社会やお客様の課題を解決するために目的を共有して俊敏に集い、社会のいたるところでイノベーションを創出することを目指しています。**

当社は、従業員一人ひとりの挑戦と成長を後押しする「ジョブ型人材マネジメント」の考え方にに基づき、**社員のキャリアオーナーシップを支援するプログラム群を「FUJITSU Career Ownership Program (FCOP)」と名付け、全社員のキャリアオーナーシップの醸成を推進しています。**

キャリアオーナーシップ診断やキャリアワークショップで自らのキャリアの状態を把握したり、考えたりする「キャリアオーナーシップの理解と浸透」、キャリアカウンセラーによるキャリア相談の提供や上司との1on1による「キャリアの対話」、学びのプラットフォーム上で社内外の多様な学習コンテンツをいつでもどこでも受講できる「学びの機会提供」、社内ポスティング制度により富士通グループ社員全員がそれぞれ目指すポジションへの異動や昇格にチャレンジできる「挑戦の機会提供」など、一気通貫したキャリア施策を展開しています。

これにより、「自律と信頼」をベースとし、社員と会社はともに成長しながらお互いのパーパスの実現を目指します。



Career & Growth Wellbeing

<https://www.fujitsu.com/jp/about/csr/education/>


Financial Wellbeing

<https://www.fujitsu.com/jp/about/csr/financial-wb/>



富士通グループの働き方改革

一人ひとりのWell-beingに向き合うDX企業としての働き方へ

2020年7月、富士通グループではニューノーマルにおける新たな働き方のコンセプト「Work Life Shift」を発表しました。

「働く」ということだけでなく、「仕事」と「生活」をトータルにシフトし、Well-beingを実現するコンセプトのもと、場所や時間に捉われることなく、お客様への提供価値の創造と自らの変革に継続的に取り組むことができる働き方の実現に向けて、人事制度とオフィス環境整備の両面から様々な施策を実施してきました。

実施する中で見えてきた課題や社員の声、アフターコロナも見据え、2021年10月、オフィスでのリアルなコミュニケーションの効果的な活用を組み合わせた真のHybrid Workの実現や、Lifeのさらなる充実などを目指し、「Work Life Shift 2.0」を発表し、より進化した施策を展開しています。

1. Hybrid Workの実践とエクスペリエンス・プレイスへの進化

- ・業務の目的に応じてオンライン／対面でのコミュニケーションを使い分ける Hybrid Workを推進
- ・オフィスの中で研修やワークショップ、タウンホールミーティングを開催、オフィスを多様な体験ができる場へと転換

2. DX企業としての働き方の進化

- ・プロダクティビティ向上に加えクリエイティビティを高める働き方へ
- ・企業や地方自治体とのコラボレーションを通じた課題解決の推進

3. WorkとLifeのシナジー追求

- ・柔軟な働き方を活かしてLifeを充実させ、生み出される相乗効果により、社員一人ひとりのWell-being実現へ



Work Life Shiftにおける三本柱



一人ひとりのWell-beingに向き合うDX企業としての働き方へ「Work Life Shift」の進化

<https://pr.fujitsu.com/jp/news/2021/10/6.html>

富士通Japan株式会社

〒212-0014
神奈川県川崎市幸区大宮町1-5JR川崎タワー
Tel.0120-835-554 (お客様総合センター)
<https://www.fujitsu.com/jp/group/fjj/>

2015年7月13日 初版発行
2024年5月20日 8.0版発行
© 2024 Fujitsu Japan Limited

AC0503